

第 10 章 港湾・空港

第 1 節 港 湾

1 港湾の概要

本県には、重要港湾が3港(秋田港、船川港、能代港)、地方港湾が2港(本荘港、戸賀港)あり、県が港湾管理者として施設整備や管理運営を行っています。

秋田港は、中国・韓国との外貿コンテナ航路、秋田港と神戸港を北九州港経由で結ぶ日本海航路、北海道・北陸を結ぶ内航フェリー航路及び背後の道路網等の整備により、秋田県の産業を支える重要な物流拠点となっています。また、クルーズ船受入による観光振興や、災害時の緊急物資輸送拠点としての役割のほか、洋上風力発電の基地港湾としての役割も担っています。

船川港は男鹿地域の物流港として、また、国家石油備蓄基地としての役割を担っています。

能代港は、大規模な火力発電所が立地するなど、県北部におけるエネルギー拠点として、また、リサイクルポート(総合静脈物流拠点港)としての役割のほか、秋田港と同様に洋上風力発電の基地港湾としての役割も担っています。

地方港湾の本荘港及び戸賀港は、海洋性レクリエーション基地や観光振興基地として利用されています。

基地港湾

○洋上風力発電設備の設置及び維持管理においては、重厚長大な資機材を取り扱う耐荷重・広さを備えた埠頭(岸壁・荷さばき地)が必要となる。

○国が基地港湾を指定し、再エネ海域利用法に基づく選定事業者等に対しふ頭を長期・安定的に貸し付ける制度を創設。

(令和2年2月施行改正港湾法)

○国土交通省は、秋田港、能代港、鹿島港、北九州港の4港を、改正港湾法に基づく基地港湾として、全国で初めて指定。

(令和2年9月2日)

2 各港の整備方針と事業計画

■秋田港

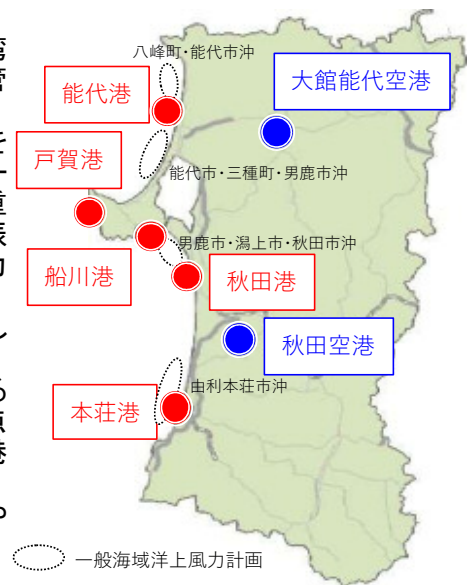
国際海上コンテナやフェリー貨物の取扱いに加え、洋上風力発電設備を取り扱う基地港湾として、日本海側の拠点となるよう機能の強化を図るほか、クルーズ船の受入環境の整備を行います。

[令和6年度主要事業]

環日本海交流拠点として、本港地区における岸壁改良工事の進捗を図るほか、発災時における港湾利用者の安全性を確保するため津波避難施設を整備します。

また、航行船舶の安全を確保するため、防波堤等の外郭施設の整備及び泊地浚渫等を行います。

◆港湾・空港位置図



秋田県沿岸における洋上風力発電の進捗状況

事業段階	事業箇所
①事業中	能代港(R4.12.22運転開始) 秋田港(R5.1.31運転開始)
②事業者選定済	能代市・三種町・男鹿市沖(R3.12.24) 由利本荘市沖(R3.12.24) 男鹿市・湯上市・秋田市沖(R5.12.13) 八峰町・能代市沖(R6.3.22)



秋田港全景(令和5年6月撮影)

■船川港

港湾利用者等の利便性向上を図るため、港湾施設整備を推進します。また、港湾施設の計画的な老朽化対策を推進します。

〔令和6年度主要事業〕

航行船舶の安全の確保や港湾利用者の利便性を向上するため、防舷材の補修及び臨港道路舗装補修を推進します。



船川港全景(令和5年6月撮影)

■能代港

地域産業の振興に貢献するとともに、洋上風力発電設備を取り扱う基地港湾として機能強化を図るため、施設の整備を推進します。

〔令和6年度主要事業〕

洋上風力発電事業の促進に向けた環境整備として、埠頭用地の整備を推進します。

また、航行船舶の安全の確保や港湾利用者の利便性を向上するため、防波堤の改良、航路浚渫及び臨港道路舗装補修を推進します。



能代港全景(令和5年6月撮影)

■本荘港

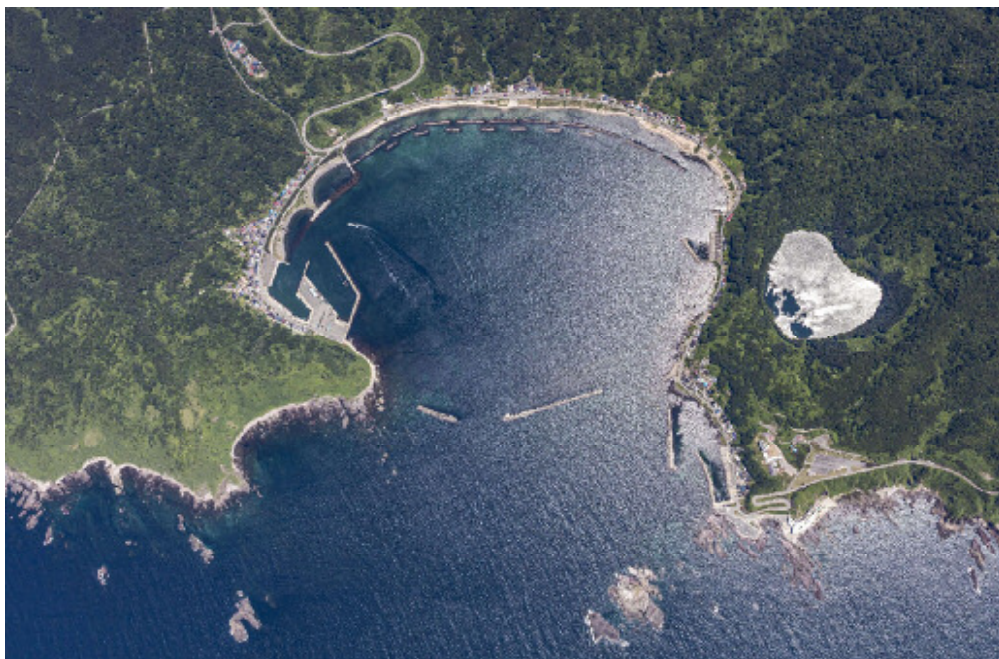
港湾利用者の利便性向上を図るための施設管理及び施設の計画的な老朽化対策を推進します。
[令和6年度主要事業]
施設の維持管理等を実施します。



本荘港全景(令和5年6月撮影)

■戸賀港

港湾利用者の利便性向上を図るための施設管理施設の計画的な老朽化対策を推進します。
[令和6年度主要事業]
施設の維持管理等を実施します。



戸賀港全景(令和5年6月撮影)

3 環日本海クルーズ振興の推進

寄港効果の最大化による地域の活性化と観光振興を図るため、官民協働組織の「あきたクルーズ振興協議会」を核とした受入態勢を強化し、クルーズ需要の回復に向けた取組を推進します。

〔令和6年度主要事業〕

受入関係者との連携を図りながら、安全・安心な寄港の受入に努めます。

また、受入時は本県ならではの“おもてなし”を心掛け、秋田の食文化や観光資源の情報発信を行うことで、陸路・空路での再訪につなげてまいります。

更に、寄港数を増加させる取組として、船社等の寄港地決定キーパーソンの招聘や寄港地観光の広域化を図るため旅行会社等を対象としたファムツアー等を実施します。



クルーズ振興の取組例



国内トップセールスによる誘致活動



海外トップセールスによる誘致活動



本県への海外船社幹部の招へい



ファムツアーによる体験型観光の売込み



歓迎イベント「男鹿のなまはげ太鼓」



出港時の「大曲の花火」打ち上げ

第2節 空 港

1 秋田空港の概要

本空港は 国設置、県管理空港として県央部の秋田市雄和椿川に位置し、面積約160ha、長さ2,500mの滑走路と計器着陸装置(ILS)などを備えています。

昭和56年6月26日に開港し、就航路線は、東京、大阪、札幌及び名古屋の4路線であり、広域交通の拠点として定着しています。また空港周辺は、580haの広大な県立公園として整備され、緑豊かな都市公園型空港となっています。

新型コロナの影響で利用者数は低迷していましたが、令和5年の利用者数は1,163,738人となり、対前年比で140.6%まで回復しています。

また、令和5年12月には秋田空港と台湾・桃園国際空港(桃園市)を結ぶチャーター便の運航が始まり、インバウンド誘客による観光振興に大きな期待が寄せられています。



秋田空港全景(令和5年6月撮影)

◆空港施設の概要

設置者	国土交通大臣	場周道路	長／6,455m 幅／5.5m
管理者	秋田県知事	駐車場	69,449㎡(3,105台)
空港の名称	秋田空港	照明施設	進入灯・滑走路灯・誘導路灯・エプロン灯等
空港の位置	秋田市雄和椿川	無線施設	ILS(計器着陸装置)・VOR/DME (超短波全方向式無線標識／距離測定装置)
空港の標点	北緯39° 36' 56" 東経140° 13' 07"		
空港の標高	93.05m	庁舎管制塔	一式
空港の種別	特定地方管理空港	通信施設	一式
空港の総面積	1,589,656㎡	気象施設	一式(風向風速・雲高・視程計)
着陸帯	長／2,620m 幅／300m	消防施設	40t水槽8基(化学消防車3台)
滑走路	長／2,500m 幅／60m	防雪施設	除雪機械等一式
誘導路	長／2,830m 幅／30～34m	ターミナルビル	国内線棟3階建(10,995㎡)国際線棟(一部3階建3,620㎡)
エプロン	長／310m 幅／190m(5パース)	貨物ビル	2棟
排水施設	一式	給油施設	200kl／2基
		燻蒸・焼却施設	一式

[令和6年度主要事業]

空港の機能維持のため、老朽化した滑走路の舗装改良や除雪車両の更新を行います。

また、航空機の安全・安心な離発着を確保するため、滑走路端安全区域(RESA)の整備を推進します。

降雪時の遅延や欠航を減少させるため、除雪隊「雪戦隊なまはげ」による国内最速級の除雪を行います。

2 大館能代空港の概要

本空港は、県設置、県管理空港として県北部の北秋田市脇神に位置し、面積は約120ha、長さ2,000mの滑走路と計器着陸装置(ILS)などを備えています。

平成10年7月18日に開港し、就航路線は、東京の1路線となっています。また、空港周辺には緩衝緑地帯を活用した「ふれあい緑地」が整備され、センターハウス、クロスカントリースキーコース、展望台等の施設を備えています。

また、羽田発着枠コンテストにより、令和4年7月1日から羽田便が2往復から3往復となり、令和5年の利用者数は過去最多となる175,917人となりました。

県北地域における観光周遊やビジネスの結節点として、重要な役割を担っています。



大館能代空港全景(令和5年6月撮影)

◆空港施設の概要

設置者	秋田県知事	場周道路	長／5,423m 幅／5.5m
管理者	秋田県知事	駐車場	13,510㎡(386台)
空港の名称	大館能代空港	照明施設	進入灯・滑走路灯・誘導路灯・エプロン灯等
空港の位置	北秋田市脇神	無線施設	ILS(計器着陸装置)・VOR/DME (超短波全方向式無線標識／距離測定装置)
空港の標点	北緯40° 11' 31" 東経140° 22' 18"		
空港の標高	84.0m	庁舎管制塔	一式
空港の種別	地方管理空港	通信施設	一式
空港の総面積	1,214,240㎡	気象施設	一式(風向風速・雲高・視程計等)
着陸帯	長／2,120m 幅／300m	消防施設	40t水槽9基(化学消防車2台)
滑走路	長／2,000m 幅／45m	防雪施設	除雪機械等一式
誘導路	長／230m 幅／30m	ターミナルビル	地上2階建一部3階建(4,062㎡)
エプロン	長／225m 幅／110m(4バース)	貨物ビル	1棟
排水施設	一式	給油施設	200kl／1基

[令和6年度主要事業]

航空機の安全・安心な離発着を確保するため、滑走路端安全区域(RESA)の工事に着手します。
また、空港の機能維持のため、進入角指示灯をLED化するほか、場周柵改良工事等を行います。